

年3回(1月、4月、8月)の全体会議は社員全員、外国人技能実習生もパート社員も参加しています。決算などの**経営状況や今期目標と経営方針を共有**することによって、**社員全員が自ら考えて働く社風**が定着しています。

また、毎月行っている懇親会の前に「ほしのわ学校」としてフラフープを使ったチームビルディングのワークや未来新聞を作るなど、年齢や立場

に関係なくコミュニケーションをとることでチームワークを高めるとともに**役職関係なく改善策の提案**を行いやすくしています。その提案を**経営企画チームで検討して、その結果をきちんとフィードバック**することで、社員のキャリアアップにも一役買っています。



<全体会議の様子>



さらに魅力的な環境に向けた取り組み

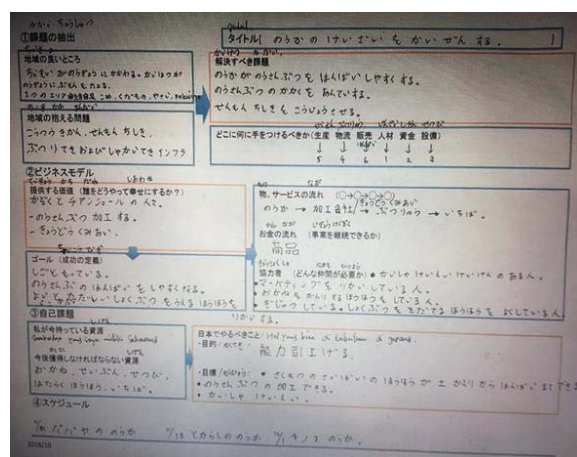
外国人技能実習生への手厚い支援

外国人技能実習生に対しては、日本での実習後に帰国してからどのように活動するのかという自らの「**ドリームプラン＝ビジネスプラン**」を共に作成し、その実現の支援をしています。

日本語能力試験合格(N2～N3クラス)への学習支援(経営層による個別支援)も行っており、受験料等の費用についても会社が負担(1人1回)しています。

これらの結果として、制度新設後3分の2の実習生が、一時帰国後再来日し、技能実習3号として最長の5年間勤務をしています。

同様に国内で独立起業希望の日本人にも支援を始めました。



<ビジネスプランの例>

ある社員の日



<社員Data>

- 30代女性社員
- 入社9年目
- いちご担当
(2016年より新規導入作物)

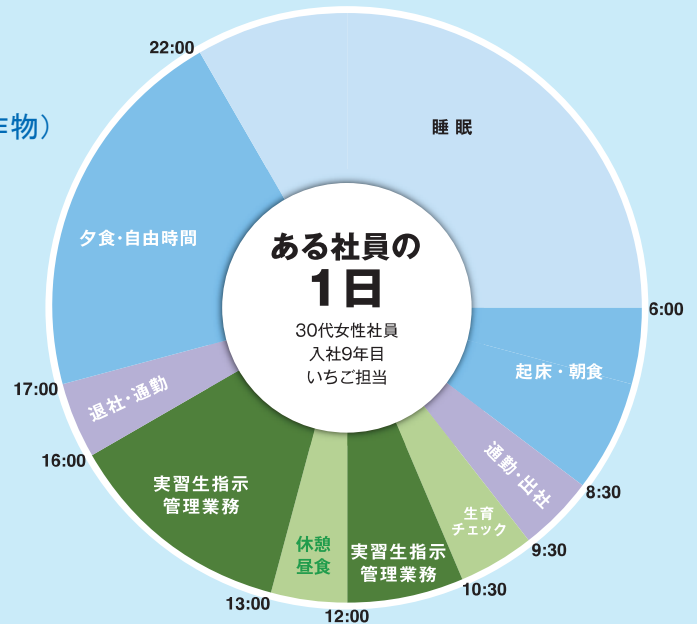
<ひとこと>

性別関係なく、個人の能力に合わせて仕事を割り振りしてくれることがうれしいです。また、仕事を任せてもらえるので、モチベーションもあがります。

新規導入作物である「いちご」を立ち上げから担当しており、苦労も多いですが、やりがいもありとても楽しいです。

子ども(1歳)がおり、保育園の関係で、週に2～3日、短時間勤務(9:30～16:00)をしています。また、社員が協力して仕事をしてくれるなど柔軟な勤務でも気兼ねしないで済む雰囲気もあり、助かります。

また、職場はアットホームな雰囲気があり、子どもを職場に連れてくることもでき、実習生や代表者の妻の美樹さん達が相手をしてくれて助かっています。



主な労務関係 DATA

〔就業規則〕

- 勤務時間
(夏) 1日12時間以内
1か月300時間以内(休憩時間240分)
(冬) 1日8時間以内
1か月200時間以内(休憩時間90分)
- 休日
週1日、繁忙期は4週で4日とすることも
ある。年末年始他冬季は長期休暇あり。
- 割増賃金: なし
- 三六協定: なし



NEXT
STEP

今後取り組みたいこと

○労働時間の削減

自分の時間や家族の時間を大切にしてほしいので、社員の労働時間を削減していきたいです。
そのためには、主力作物であるレタス等の露地野菜の比率を下げる必要があります。これらの野菜は、深夜3時から業務を開始することもあり、冬は雪や寒さで仕事ができないなど、業務の繁閑が大きいのです。
対策としては、まず、ハウス内でのいちご栽培のウェイトを上げつつ安定化させ、業務の平準化を進めていきたいです。



星野高章社長



ここが
魅力的

1. SNSの導入により、
労働時間を20%削減
2. 業務改善の提案を表彰して、
社員のモチベーションアップ
3. スマート農機を導入して、労力削減

経営概要

- ＜所在地＞ 鹿児島県志布志市有明町蓬原758
- ＜代表者＞ 代表取締役 堀口 泰久
- ＜設立＞ 1989年4月
- ＜売上高＞ 1,596百万円
- ＜社員数＞ 正社員67名、パート社員3名
- ＜事業概要＞ 農産物の生産、加工、観光、飲食店
- ＜作目＞ 茶 120ha、加工場3ヶ所（煎茶、てん茶、仕上げ）
- ＜特徴＞

鹿児島堀口製茶有限会社は、系列農家を含む約270haの面積で茶の栽培から荒茶製造、製品販売に至るまでの茶業一貫経営を行い、販売部門は株式会社和香園として分社化しています。

国内最大級の生産能力を持つ荒茶工場を有し、農薬をできるだけ使わない安全・安心な方法により、茶葉から袋詰め工程までを食品分野で最も厳しいとされる国際食品安全基準認証FSSC22000を日本で唯一取得し、こだわりのお茶を製造しています。

また、「お茶摘み体験ツアー」などの各種イベントの開催や、地元高校での授業を担当するなど、地域全体の活性化とともに雇用の創出に貢献しています。





魅力 1 SNSの導入により、労働時間を20%削減

労働時間

茶園管理や茶製造の各部署（各農場や工場など）がLINEグループでつながっているため、業務上の連絡や、作業の進捗状況など様々な内容を共有しています。

例えば、茶園の管理では、1チーム4～5人で、茶園の生育状況を考慮しながら、チーム外の方とも相談して計画を立て、被覆・除草・摘採などの時期を決定しています。

また、茶園を毎日見ること、**病害虫などの異常**に気付いた場合も、**写真等を含めて共有し、電話で相談など迅速な対応ができています。**

これらにより、ほ場毎の管理の打ち合わせに要していた時間が激減し、労働時間がSNS導入前に比べ、20%削減できています。



＜病害虫の異常を連絡・相談している様子＞
伝わりにくい内容もSNSで写真等も含めて共有するほか、電話相談もできるため迅速に対応ができる。



魅力 2 業務改善の提案を表彰して、社員のモチベーションアップ

人材育成

「良さそうな意見があれば、『とりあえずやってみよう』という社風があります。駄目だったらそれでもいいんです。**失敗をしながらでいいので、若い人たちに裁量を与えて、自分たちの仕事に責任とやりがいをもてるようにしています。**」と堀口大輔副社長は話しています。

慰労会と忘年会では、社員投票等によって決められる今年一番活躍した社員に贈られる**MVP賞の表彰や、社内に設置されている改善提案箱**に入れた業務改善案ごとに堀口泰久社長が評価し、提案者を表彰する催しを行っています。

特に会社への貢献度の高い改善案を提案した社員に対しては、社長賞を贈るなどし、**積極的な業務改革の実施と、社員のやる気を引き出す仕組みを整備**しています。



＜社内に設置されている改善提案箱＞

鹿児島堀口製茶が目指す理想のお茶づくり「スマートIPM農法※」の実践のために、環境に配慮したお茶づくりと共に**労力削減を目指して機械を自社で開発**しています。

堀口社長が台風直後の畑には虫がいないことに気づき、これにヒントを得て、水、風、吸引、高圧蒸気、米ぬか噴射等で害虫や雑草を退治する機械「茶畑戦隊 茶レンジャー」を開発しました。

※スマートIPM農法：スマート農業とIPM農法を組み合わせたもの

スマート農業

情報通信技術（ICT）やロボット、人工知能（AI）などを活用した先進的農業

IPM農法

IPMは「Integrated Pest Management」の略。

化学農薬だけに頼らない、人と環境に優しい持続可能な農法。



＜自社開発した農機「茶畑戦隊 茶レンジャー」＞

また、茶工場で仕上げた荒茶の入った30キロ袋の発送の際に行う荷物の積み下ろしは大変な重労働です。少しでも社員の肉体的な負担を減らそうと、介護や物流などの現場で導入されていて**足腰の負担をやわらげるアシストスーツ**を2019年から導入しました。実際に使用した社員からは「一日の作業が終わった後の疲労感が全然違う」と好評で、より使いやすいものに改良を進めています。



＜荷役の負担を軽減するアシストスーツを導入＞



さらに魅力的な 環境に向けた取り組み

社内の催しを数多く開催

社員同士のコミュニケーションが活発になるように、任意参加で花見、忘年会など、社内の催しも数多く行われています。

5月下旬の一番茶の収穫後には慰労会を開催しており、グループ会社の社員約100名全員が会社の中庭で、音楽を聴いたり、バーベキューをしたり、出し物を企画して実施するなど、普段の仕事の中ではなかなか会うことない社員同士の交流を深め、コミュニケーションを促進しています。



＜一番茶前の決起集会の様子＞

ある社員の日



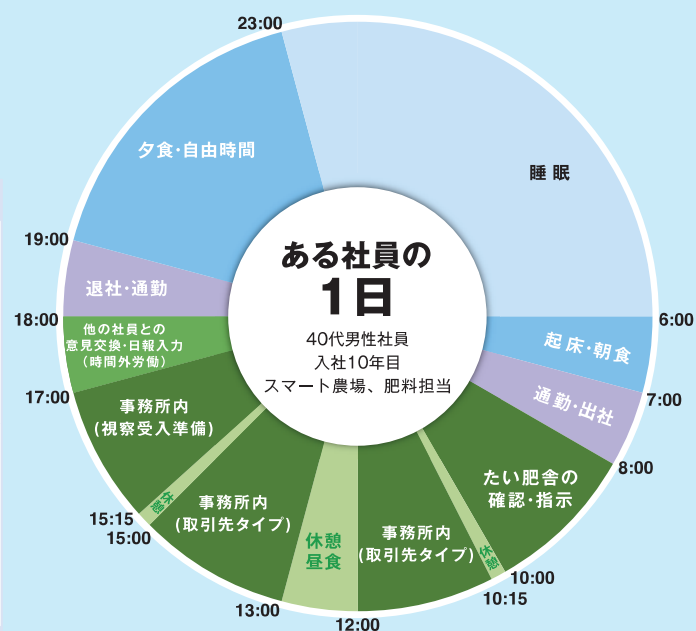
<社員Data>

- 40代男性社員
- 入社10年目
- スマート農業、肥料担当

<ひとこと>

美容師をしていましたが、実家が堀口製茶の系列農場だったこともあり、結婚を機に実家に戻りました。

茶の栽培の勉強のために堀口製茶で働き始め、先進的な取組みに多く興味が持てたため、実家の農場も手伝いつつ、そのまま勤務することになりました。前職の変則的な勤務よりも仕事が規則的で、きちんと休み時間もとれ、働きやすいです。すぐに「とりあえずやってみろ。」と任せてもらえ、失敗に臆することなく仕事に取り組めたため、今では生産や営業、企画など様々な仕事ができるようになってきています。



主な労務関係 DATA

〔就業規則〕

- 勤務時間
 - 1年単位の変形労働時間制
 - (通常) 8時～17時
 - (休憩時間90分)
 - 1週平均40時間以内
- 休日
 - 所定休日: 87日
 - (1週1回以上+農繁期5日/月、農閑期 土日祝日休み)
- 割増賃金: 時間外125%、休日135%
- 三六協定: あり



今後取り組みたいこと

○ 人事評価制度の導入

熊本県人吉市の中小企業大学校で人事評価制度の講義を受けたことがきっかけで人事評価制度の重要性に気づきました。

今後、既に一部導入済みの役職・技術手当などを分かりやすく体系化し、業務によっては月給制に統一するなど、社内制度を専門家と一緒に魅力的にしていきたいと考えています。

○ 休日の増加

お盆の時期の休日を増やし、社員の仕事以外の時間にゆとりを持たせることから始めたいと考えています。そのためにも、系列の農家と相談して、お盆時期は出荷しないことが合意できれば可能だと考えています。



堀口泰久社長